

Summary, 4 December, 2019

日時：令和元（2019）年12月4日 18:00～19:30

会場：東京外国語大学 語学研究所

言語教育フォーラム《読解の教育》「中国語読解教育の特徴と課題について」

報告者：三宅登之（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授 / 中国語学）

MIYAKE Takayuki

本発表では、1.本学中国語読解教育について、2.日本の中国語教育界での読解教科書について、3.中国語の読解教育で注意すべき点について、の3点について述べた。

1.本学中国語読解教育について

まず、1・2年次の専攻言語中国語の授業カリキュラムと読解の授業の位置づけを紹介した。次に、使用している独自作成教材『東京外国語大学中国語教材 読解』の基本的編集方針や出典の文章のジャンル等を紹介し、中でも第3課までピンインを付して第4課以降は付さないというピンインの扱いについて述べた。

2.日本の中国語教育界での読解教科書について

次に、日本の中国語教育界における読解分野の教科書の概要を紹介した。初級段階では文法・読解・会話と分けられない総合教材が多いため、読解に特化したのは初級では少なく、中級に少しある程度であるという現状について述べた。中級レベルではジャンルを特化した読解教科書も少しは出版されている点にも言及した。

3.中国語の読解教育で注意すべき点について

3点目として、中国語の読解教育で注意すべきいくつかの点について考えを述べた。

(1)どのような文体を選ぶか

中国語は文体のバリエーションが多く、読解の教材としてどのような文体の文章を選ぶかという点が重要になることを述べた。

(2)話し言葉と書き言葉の乖離について

中国語は話し言葉と書き言葉の開きが大きく、教材としてどちらよりの文体を選ぶかが重要な問題となる。主に、①語彙の違い、②言い回しの違い、③音節の制約、④文体の基準、という4つの点から、中国語の話し言葉と書き言葉の乖離について説明した。

(3)ピンインの扱いについて

中国語の教育で欠かせないピンイン（“拼音字母 pīnyīn zìmǔ”中国語表音ローマ字）を紹介した。中国語は漢字表記で発音はピンインを介して学習していくものの、いずれはピンインなしで読めるようにさせなければならない。しかし中国語の読解教育の際には、漢字だけを見てわかったつもりにならないよう、しっかり発音できるように、ピンインを有効活用し常に発音を意識しながら練習すべきであることを主張した。

(4)スマホの活用について

最後に、読解教育の場でのスマホの活用について私見を述べた。